

★今月のグラビアは、福岡市・ちどり保育園です

★特集は、「なぜ起こる？子どもへの虐待」(15頁～)

コロナ禍の中、登園自粛・テレワークなどにより家庭環境が大きく変わり、保護者の子育て負担が重くなっています。子どもへの虐待やDVが増加・潜在化し、より深刻化してきているのではないかと危惧されます。子どもの虐待の現状・背景、社会的課題、保育園に求められることを、学びあい、私たちにできることを考えあいましょう。

今月は、問題を整理して考えるために、小論から読んでみるのをお勧めします。

◎小論:子どもたちは今—児童相談所から見た子育て状況と支援の課題(34頁～)

川松 亮さん(明星大学)は、●虐待は子ども自ら訴えることが少ないため、虐待が増えているかは不明だが、虐待に関する社会的な周知が進み、発見通告が増え、虐待相談件数が16万件近くに増加している。●近年増加が著しい虐待は心理的虐待。(36頁)家庭内でのDVにより警察署から心理的虐待が通告された事例が多くなっている。子ども虐待への対応においては、背景にDVがあるかもしれないことを見逃さず、子どもと家族に関わる支援者が早期に気づき、関係機関とともに子育てを応援することが重要。●保護者の仕事がうまくいかず転々と職を変えて経済的に困窮している、アルコールの問題を抱えている、保護者か子どもに疾患や障がいがあるが十分なケアが得られていない、保護者が精神的に不安定、養継親子関係や父母の内縁関係など家族関係が複雑、ひとり親家庭で多忙で子育てに余裕がない、海外にルーツがあり日本語での支援につながらない状況など、自らの力では解決が困難な状態である場合が多い。これらの困難が相互に結びつき、「複合的に困難」を抱えた状態にある。さらに、社会的に孤立しているために、さらに困難が増幅していることも注視する必要がある。●保育所に入所できないで家庭の困難が深まっている場合もあり、地域の関係者や関係機関が支援を「つなぐ、つながる、つなげ合う」ことを大切に取り組むことが必要。●保育所に求められる支援は、①見つける…早期発見して支援につなげる、②聴く…気なる子どもや保護者が安心して話を聴いてもらえる場が保育所、役割分担をして保護者を受けとめる職員を設けることや、組織全体で情報を共有して全体の問題として検討する体制が必要、③手助けする…保護者の養育困難や生活上の課題に対して、対応できる支援機関や支援サービスを紹介し、正確な情報を伝えて支援につなげること、また、子どものほめ方・叱り方といった子育てのアドバイスや発達に関する知識を伝えることも保育所ならではの役割、④つなげる…地域の支援機関同士は一つのチーム、他機関と顔を合わせて協議することや、同席で家族と面接す

るなどの工夫を。●保育の場は、親子を家庭ぐるみで見つめて子育てを応援できる大切な場。子ども家庭福祉のソーシャルワークにおけるその機能がさらに充実することを願っていますと。

◎実践：いつも笑い声が響く保育所に－困難を抱える家庭・子どもを支えるために 埼玉・公立保育所(22頁～)シングルファザーの子ども2人の養育の問題を祖母からの訴えにより取り組んだ実践。所長の羽鳥さんは、●職員の気持ちをそろえていかなければ、保育所内の連携も協力も図れません。子どもたちへの対応のなかで、どうしても保育士の「困り」の気持ちが強く出てしまいがちになり、不満も出てきましたが、「本当に困っているのは子どもたち」だということに立ち返れるように、声をかけるようにしている。●保育所では、①**疲弊する職員をどう支えるか**…担任はていねいに関わろうと対応に悩んだり、精神的に疲弊したりしていく。日頃から職員の誰にでも話せる関係づくりを心がけ、“ひとりで悩みを抱えない職場”をめざしているが、なかなかむずかしい。②**保護者との関係づくり**、③**子どもの気持ちに寄りそうこと**に取り組む。●色々なことがあっても、子育て・保育は大変だけれども楽しいこともうれしいことも感動することもたくさんある。大変さはみんなで少しずつ背負ってわかちあい、楽しいことうれしいこと、感動したことは共有してさらに大きくしていきたい。●より良い保育ができるよう保育所の環境を整えるために学習したり、運動したり、声をあげていく取り組みにも、より積極的になりたいと。

◎レポート：シングルマザー家庭の実情－いつも全力疾走しなくていい社会のしくみを(28頁～)認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむの小森さんは、●シングルママたちは、まわりの目をととても気にしている、●コロナ禍で、小中学校一斉休校と「登園自粛」要請で仕事に行けなくなり収入減のひとり親家庭には食料品支援に取り組む、●しかし、コロナ禍で、シングルママたちはストレスや孤独感をため込んでしまいがち、●保育士さんや園の職員さんは、たとえ年齢が若くても育児の専門家、先生のような存在。欠点があるように見えるママでも、先ずは受け入れて、いいところを探してほめてあげてほしいと。

➡特集とあわせて「保育、こんなときどうする？どう考える？」清水玲子さん(86頁～)。テーマは「職員同士の関係の悩み、どうしたら？」●自分の保育のやり方と違うことからコミュニケーションを避けるようになった園、●形は話しあって決めても、強く意見を言う人に物言えぬ雰囲気は何時もあって苦しい園も、●ではどうしたら？…みんなで読んで考えあいましょう